

●●●●● 11月は「いじめ撲滅強調月間」です ●●●●●

埼玉県は、11月を「いじめ撲滅強調月間」に制定し、いじめの根絶に集中的に取り組んでいます。いじめに遭ったり、気が付いたりしたら、一人で悩まずにご相談ください。

電話相談窓口

- よい子の相談教育相談(24時間365日対応)
 - ・子供専用(18歳以下)..... ☎0120-86-3192
 - ・保護者専用..... ☎048-556-0874
 - ・Eメール相談(子ども、保護者共通) soudan@spec.ed.jp
- ヤングテレホンコーナー(埼玉県警察少年サポートセンター)
 - (月～土：午前8時30分～午後5時15分／祝日・年末年始を除く)..... ☎048-861-1152
- 子どもスマイルネット(毎日：午前10時30分～午後6時／祝日・年末年始を除く) ☎048-822-7007
- 埼玉県のいのちの電話
 - ・相談電話(24時間365日対応)..... ☎048-645-4343
 - ・こどもライン(18歳以下)(金・土のみ午後3時～9時30分)..... ☎048-640-6400
- さいたまチャイルドライン(毎日：午後4時～9時／年末年始を除く)
 - ・子供専用(18歳以下)..... ☎0120-99-7777
- 埼玉県こころの電話(平日：午前9時～午後5時／土・日・祝日・年末年始を除く) ☎048-723-1447
- 子ども人権110番(月～金：午前8時30分～午後5時15分／祝日・年末年始を除く) ☎0120-007-110

問合せ 埼玉県県民生活部青少年課 ☎048-830-5858

人権作文

「周りのことを考えて」

中学校 三年生

私は役者だ。いや、演技をして
いるというほど大げさではないか
もしれないが、最低限人に嫌われ
ないように行動しているのは確か
だと思ふ。嫌なことがあっても表
に出さないようにしたり、大丈夫
じゃなくても大丈夫だと言った。
なぜだろうか、去年はそのような
ことが異常に多かったのだ。

自分が嫌だと思ふことを率先し
てやる人は少ないだろう。掃除だ
ったり、委員会や係だったり、人
間関係だつて嫌なことはある。別
に自分がやらなくてもいいのだ。
そう言つて知らんぷりする人は多
いが、誰かがやらなければならな
いことに変わりはない。というこ
とは、無意識に「自分がやりた
くないこと」を「誰かに押し付け
ている」と言うことになるのでは
ないだろうか。私はたぶん、誰か
に「押し付けられる」側だと思ふ。
断りたくても、良い子を演じてい
る私は受け入れるしかなかった。
正直に言つて嫌だった。辛かつた
でも、そこでやりたくないと言つ
たら、他の誰かに押し付けること
になつてしまう。だから我慢して
いた。私だけが我慢をすれば、他
の人は嫌な思ひをしなくてすむん
だ、と。

だが、辛いことが重なる疲れ
てくるのは当然のことだ。ストレ
スも溜まって自暴自棄になりかけ
ていたとき、楽しそうにはしゃぐ
皆を見て私はこう思つてしまった。
自分がやりたくないことを人に押

しつけているというのに、なぜ平
然としていられるのか。なぜ手伝
おう、助けようと思わないのか。
私は、周りのそいつた「自分さ
え良ければいい」という考えが信
じられなかった。そうして私はだ
んだんと疑心暗鬼になつていき、
学校に行くのも嫌になつた。泣き
ながら家に帰つたこともある。け
れども、なるべく良い子でいなけ
ればならなかった私は、そいつた
たことを周りに打ち明けることが
できなかつた。それでもさすがに
毎日顔を合わせる家族だ、私に元
気がないことに気がついた母が、
「最近元気がないけど、何かあつ
た？」

と、尋ねてきた。一人で抱えたま
まにするのは辛かつたので、学校
でのことを少しだけ話した。少し
だけ、というのには、私が周りの人
を一概に悪いとは言えなかつたか
らだ。一通り話した後、母は私に
こう言つた。
「それはアンタが悪いでしょ。」

別に何かを言つてほしかつたわけ
ではなかつたが、まさか非難され
るとは思わなかつた。今でも思い
出すと涙が込み上げてくる。考え
てみれば、母はきつと自己犠牲が
すぎるのは良くないと言いたかつ
たのかも知れない。けれども、当
時の私には酷く理不尽に聞こえた。
その時は笑つて過ごしたものの、
強い自責の念に駆られるようにな
つた私は、より一層学校に行くの
が嫌になつた。
そんな時、私は一人の友人にそ
の事を手紙で話した。話したとい
つても、「嫌なことがあつて、少
し疲れちゃつた」程度のことだつ
た。
友人はこら辺に住んでいてはな
いので、大丈夫だと思つた

のだ。すると、
「大丈夫？ まあ、俺は直接そつ
ち干渉することはできないけど、
話くらいは聞けるから。何か嫌な
ことでもあつたら電話でも手紙で
もいいから言つてよ。それくらい
なら俺にもできるから。」
と返つてきた。そんなことを言つ
てくれた人は今までのいなくて、言
葉にできないほど嬉しかつたのを
覚えてる。面と向かつて言われ
たわけじゃない。それでも、私は
どれだけこの友人の言葉に助けら
れただろうか。
それから二年生が終わり、クラ
ス替えということもあつて、私は
少しづついつも通りに戻ることが
できてきていた。やはりまだ嫌な
ことを引き受けてしまふのは変わ
らなかつたり、辛いことを隠して
しまふことはあるが、前よりは良
くなつたと思ふ。あの後、母もな
んだかんだで助けしてくれたし、今
は可もなく不可もない生活を送れ
ている。楽しくなつたわけではな
いのか、と言われるかもしれない
が、私にとっては大きな一歩だ。
これからゆつくりと良くしていけ
ばいいのだ。なんでも一人で抱え
込んでいた私は、人に相談すると
言うことを知つた。一人じゃ決し
て生きていけないということを教
えてもらった。私の中学二年生は、
嫌なことがたくさんあつたが、そ
こから得られるものも少なからず
存在したのだ。このことはずっと
忘れられないと思ふ。このような
経験をしたらこそ、私はもつと
自分を大切にしたいし、周りの人
のこと大切になりたい。誰かに押
し付けるのではなく、皆で助け合
う。いつか皆がそんな風に考える
ようになる。私、私は願つ